

おにはそと！ふくはうち！

はにゅうしりつとしょかん

「まめのかぞえうた」

西内 ミナミ/さく 鈴木出版 E/マ

豆の木がぐんぐん成長してできた豆を、福



が来るよう元気良く食べ、楽しいかぞえうた

「まめまきできるかな」

すとう あさえ/さく ほろぶ出版 E/ハ

今日は節分。まめをまいて、おにを追いほら



う日です。まこちゃんはまだめをまく練習をしますが、なかなかうまくできません。どうしたらいいのかな？

「まめまきバス」

藤本 ともひこ/作 鈴木出版 E/マ

今日は節分。なのに、町では、咳をしたかいじゅうおにが大暴れし、みんなに風邪をうつ



っていました。バスとねずみたちは、かいじゅうおにをやっつけようと豆を投げますが…。

「おにはそと」

せな けいこ/作 金の星社 E/オ

子どもたちに豆をぶつけられて逃げ帰った鬼たち。でも小さい鬼の「ちび」は、逃げずに子どもたちと仲良くなりました。「ちび」が人間に捕ま



たと思った鬼たちは、取り返すために武器とよらいを作りました。

「おばあちゃんのえほうまき」

野村 たかあき/作 校成出版社 E/オ

今日は節分です。おばあちゃんときりちゃん



は、恵方巻きをつくります。まずは、ほうれん草を色よくゆでて、次に、厚焼き玉子を焼いて…。

「せつぶんだまめまきだ」

桜井 信夫/作 教育画劇 E/ギ

昔、冬から春へと季節が変わる頃に、人々は豆をまき、悪い鬼を追い払うことを始め



ました。そんな節分の行事の由来をお話で。

「鬼といりまめ」

谷 真介/文 校成出版社 E/オ

鬼がまだ山奥に住んでいた頃の、日照りが続



いた年のこと。雨を降らせてくれた代わりに、鬼のもとへ嫁いだおふくは、家へ帰りがくてたまらなくなり…。

「ふくはうちおにもうち」

内田 麟太郎/作 岩崎書店 E/フ

節分の夜、男が一人で酒を飲んでいたら、外



で「さむいよう」と声がする。だけれかと思ったら、鬼たちだった。それなら入れと男は誘い、やがて宴会がはじまった。そこへ…。

「せつぶんのひのおにいっか」

青山 友美/作 講談社 E/セ

普段はのんきに暮らしている、おにい一家の3人。



ある晩、明日が節分だと思い出したおに一家は、大慌てで準備をはじめました。節分の日、人間たちが豆をまき始めると…。

「オニのサラリーマン」

富安 陽子/文 福音館書店 E/オ

赤鬼のオニガワラ・ケンは、地獄カンパニー



のサラリーマン。今日の仕事は、血の池地獄の監視。血の池に浮かんでいる、亡者たちの見張りにつきましたが…。

「オニじゃないよおにぎりだよ」

シゲタ サヤカ/作 えほんの杜 E/オ

オニ 3匹は、おいしいものを人間に食べさせてや



ろうと大量のおにぎりを作って人間の住む町へ。ところが人間たちはオニを怖がって逃げてしま。それをまた勘違いした 3匹は…。

「せつぶんセブン」

もとした いづみ/作 世界文化社 E/セ

節分の日にやってきた「せつぶんセブン」。



大豆を炒って準備したら、子どもたちといっしょに鬼のおめんづくりを始めます。ますの中に豆を入れてもらって、鬼の役と豆まきの役にわかれたら…。

「おにはそと！ふくはうち！」

いもと ようこ/文 金の星社 E/オ

2月3日は節分。「おにはそと！ふくはうち！」



というかけ声とともに、家のなかそとへ豆まきをするのが一般的。では、どうして節分には豆まきをするのでしょうか？

「ようかいむらのにこにこまめまき」

たかい よしかず/作 国土社 E/ヨ

今日は節分。神社で豆まきです。あまのじゃくの



ようかい「じゃくじゃく」は年男なので、舞台から豆をまきます。そこへ、しちふくじんがあらわれて…。